



編集方針

1 トヨタ紡織のはじまりとこれから

2 価値創造のドライバー

3 インテリアスペースクリエイターの具現化

4 2030 年目標達成に向けた戦略

5 競争優位を支える経営資源の高度化

6 強靱なグローバル経営基盤の確立

補足資料・データ

Q₁

トヨタ紡織は、
どんな価値を
提供する会社なのか？

Section

1

トヨタ紡織のはじまりとこれから

07 豊田綱領から紡ぐVision

08 私たちの原点

09 ビジネスモデル

10 3つの強み

11 TB Wayの実践と行動変革

豊田綱領から紡ぐ Vision

創業の精神である 「世のため 人のため」 を受け継いで

トヨタグループの創始者であり、豊田紡織(現 トヨタ紡織)の創業者である豊田佐吉は、「人の役に立ちたい」「国家のためにつくしたい」という思いを胸に、自らの知恵により新しいものを創造する「発明」を通じて、社会に貢献することで事業を成長させました。これは、社会課題の解決と事業成長を両立させる価値創造の原点といえます。時代を先駆けした豊田佐吉の研究と創造、温かい家族主義への姿勢は、後継者にも脈々と受け継がれ、豊田綱領として広められてきました。私たちは、100年以上にわたって受け継いできたこの志を大切にしながら、**経営上の信念・価値観・行動理念をTB Wayとして明文化しました。その実践を通じて、社会課題の解決に本気で取り組むことで、「社会に必要とされ続ける会社」を目指しています。**

自動車業界では、電動化やソフトウェア化の進展などにより、モビリティの価値そのものが再定義されつつあります。このような環境変化の中、トヨタ紡織グループは、自らの目指す企業像を示した Vision で、「明日の社会を見据え、世界中のお客さまへ感動を織りなす移動空間の未来を創造する」ことを標榜しています。

当社グループは未来を見据え、モビリティの進化や、価値観の変化に柔軟に対応しながら、車室内で過ごす時間と空間を価値あるものに—

すべてのモビリティへ“上質な時空間”を提供したいと考えています。

豊田綱領

豊田佐吉翁の遺志を体し

- 上下一致、至誠業務に服し、産業報国の実を挙げべし
- 研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし
- 華美を戒め、質実剛健たるべし
- 温情友愛の精神を発揮し、家庭的美風を作興すべし
- 神仏を尊崇し、報恩感謝の生活を為すべし

TB Way

先進的な技術開発と高品質なもののづくりを通じて社会に貢献する

1. 創造力と勇気をもって、夢の実現に向けて挑戦する。
2. より高い目標の実現を目指し、絶え間ない改善を行う。
3. 現地・現物で課題を深く分析し、真因を追求する。
4. 決断された事は情熱と使命感を持ち、一気呵成に実行する。
5. 自己の業務領域には、プロ意識をもって全力で取り組み、結果には責任を負う。
6. 常にオープンでグローバルな意識を持ち、多様な価値観を尊重し受け入れる。
7. 良き企業市民として、良識ある行動をとり、社会との調和を目指す。
8. 個人の人間性を尊重し、チームとしての総合力を発揮して成果を上げる。

Vision

明日の社会を見据え、
世界中のお客さまへ
感動を織りなす
移動空間の未来を創造する

編集方針

1 トヨタ紡織のはじまりとこれから

2 価値創造のドライバー

3 インテリスペースクリエイターの具現化

4 2030 年目標達成に向けた戦略

5 競争優位を支える経営資源の高度化

6 強靱なグローバル経営基盤の確立

補足資料・データ

フィロソフィー



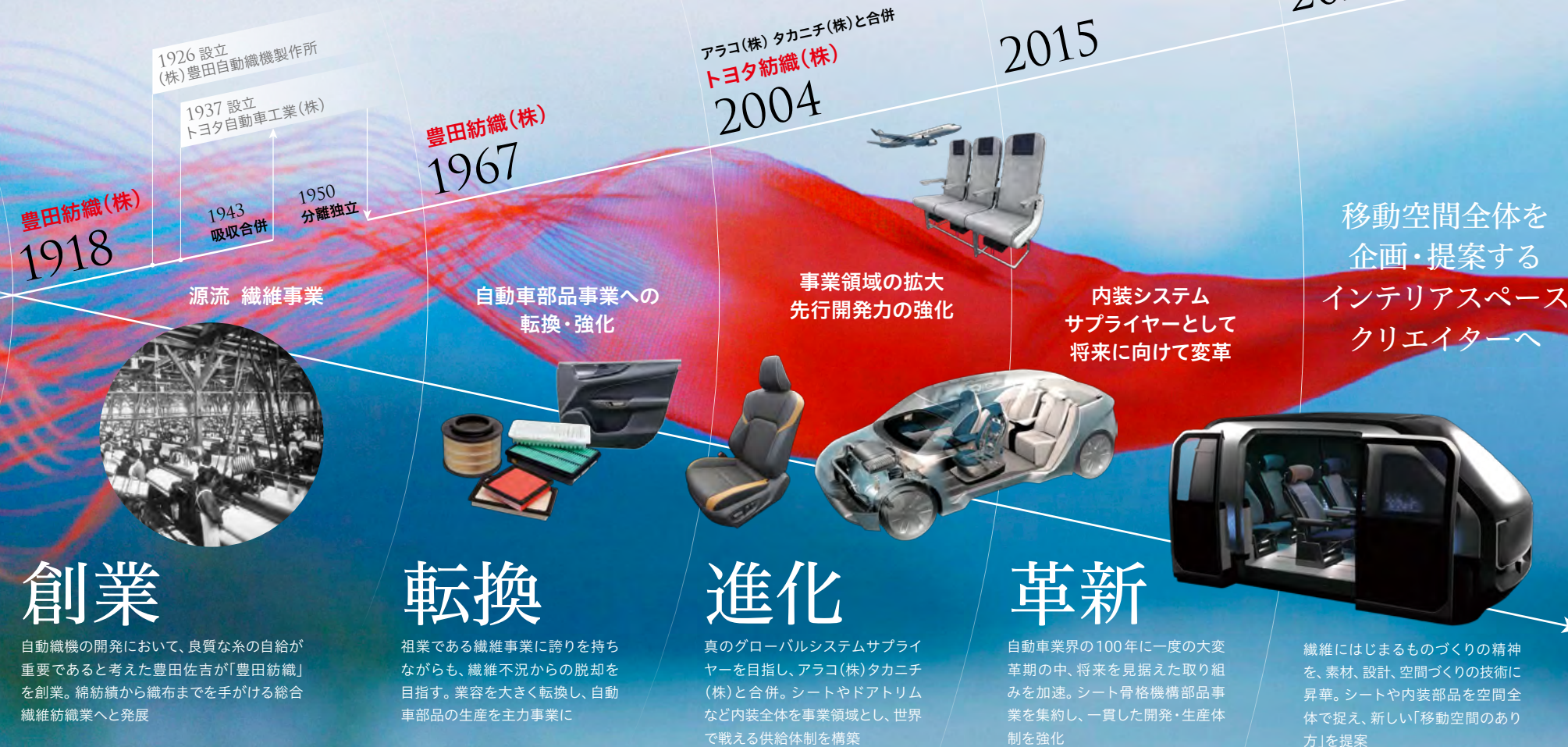
私たちの原点

繊維からシート、そして空間全体へ。
強固な基盤の確立と成長の軌跡

トヨタ紡織は、時代の変化に応じて重要な決断を重ね、事業を変革してきました。

変わらぬ創業の精神は「世のため 人のために貢献すること」です。私たちは常に人が触れる製品を扱い、人を中心にしたビジネスを展開しています。

未来の移動空間をより豊かで価値あるものにするために、挑戦し続けます。



編集方針

1 トヨタ紡織のはじまりとこれから

2 価値創造のドライバー

3 インテリラスペースクリエイターの具現化

4 2030年目標達成に向けた戦略

5 競争優位を支える経営資源の高度化

6 強靱なグローバル経営基盤の確立

補足資料・データ

沿革



ビジネスモデル

創出したキャッシュを戦略的に配分する成長ビジネスモデル

トヨタ紡織グループは、自動車のシートや内外装製品、フィルターなどを開発・製造するグローバルな自動車部品メーカーです。企画から開発、製造、そしてトヨタ自動車(株)をはじめとする日本内外の自動車メーカーへの供給までを一気通貫で実現します。お客さまの近くでニーズに合わせた最適な製品を提供し、世界中の人々に安全・環境・快適を追求した移動空間を届けます。

グローバル展開

23 の国と地域 90 拠点



売上収益

2兆370 億円

移動空間 18,769

シート製品、内外装製品

製品別
(億円)

ユニット部品 1,600

FPT(フィルター・パワートレイン)製品、
電動製品

自動車用シート世界市場シェア

3 位 10 % (売上収益ベース)

出所: S&P Global Mobility データをもとに自社で算出



小型から高級車まで。
セダンも。ミニバンも。

多様な車種ごとのニーズに応じた開発を
並行して進め、最適な製品を提案



トヨタ自動車をはじめ、
日本内外の多様な
自動車メーカー向けに。

エンドユーザーまで意識した
「先進的な技術開発と高品質なものづくり」を追求



自動車だけでなく、
すべてのモビリティへ。

航空機や鉄道など、
さまざまな移動空間へ新たな価値を提供

編集方針

1 トヨタ紡織のはじまりとこれから

2 価値創造のドライバー

3 インテリアスペースクリエイターの具現化

4 2030 年目標達成に向けた戦略

5 競争優位を支える経営資源の高度化

6 強靱なグローバル経営基盤の確立

補足資料・データ

3つの強み

五感に働きかけ、体験価値を実現する技術力

- 時流に先んじた革新的な技術開発
- グローバルな開発体制
- 強固な研究開発の基盤

豊田綱領から受け継ぐ挑戦と好奇心・探求心を基盤に、革新的な技術開発とグローバル体制を構築し、社会のニーズや地域特性を的確に捉えた製品開発を進めています。これにより、安全・環境・快適を追求した製品を通じて、乗員が感じる価値の向上につながっています。

ユーザーの五感に
近い技術

技術開発

グローバルで価値創出を支える人材基盤

- グローバルに活躍する人材
- 多様な価値観の結集
- 活躍を支援する環境

多様な価値観を尊重し、ともに学び・成長する企業風土のもと、現場力と改善力を持つ人材が価値創出に挑戦する組織風土を形成しています。これにより、グローバルでの価値創出を支え、競争優位の持続につなげています。

グローバルに活躍する
人材と組織力

人づくり

3つの強み

リーン生産・JISによる
一気通貫の供給力

ものづくり

価値を確実に具現化するものづくり力

- 高品質な製品と効率的な供給体制
- 強靱なものづくりの基盤
- サプライヤーとの協働

改善と現地現物を重視して磨いてきたリーン生産※1を基盤に、JIT※2・JIS※3を核とした供給体制を構築しています。これにより、グローバルで安定した品質と供給を実現し、企画から供給までを一体でつなぐ価値提供につなげています。

3つの強みを基盤に、 競争優位につながる価値を創出

競争優位性 → P.32 ■■

競争優位を支える経営資源(3つの強み) → P.62~84 ■■

※1 ムダの徹底的な排除を通じて、品質・コスト・納期の最適化を図る生産方式 ※2 Just In Time: 必要なものを必要なときに必要な分だけ生産する生産方式
※3 Just In Sequence: 顧客の生産スケジュールに基づき、適切な順序で製品を供給すること。JITと併用することで、顧客と自社双方の在庫低減を可能にする

編集方針

1 トヨタ紡織のはじまりとこれから

2 価値創造のドライバー

3 インテリアスペースクリエイターの具現化

4 2030年目標達成に向けた戦略

5 競争優位を支える経営資源の高度化

6 強靱なグローバル経営基盤の確立

補足資料・データ

TB Wayの実践と行動変革

TB Wayを
実践と制度で循環させ、行動変革につなげる

トヨタ紡織は、トヨタグループ創始者・豊田佐吉の考えをまとめた「豊田綱領」を社是とし、その価値観を日々の行動へと具体化したTB Wayを定めています。

TB Wayは、事業活動・社会性活動・環境活動における方針や目標の実行へとつなげる、社員一人ひとりの行動のよりどころとなっています。

これを共通の価値観として共有することで、グローバルに一体感を持って判断や行動ができるよう設計されており、その実践が日々の業務に定着しています。また、その実践状況は人材育成や評価にもつながり、事業活動の質の向上を通じて、事業成長と社会価値の創出に結びついています。

グローバルでの浸透

- TB Wayは、8つの行動原則として定義され、各拠点で日常業務の中に浸透しています
- グローバルリーダーが一堂に会する「グローバルウィーク」では、代表者が実践エピソードを語り、全参加者でTB Wayを唱和する機会を設けています
- 理念が具体的な行動として理解・共有され、一体感を持って実践される基盤となっています

TB Wayの体現と浸透の事例

私は2025年4月に生産事業体初の女性拠点長に就任し、同年7月のグローバルウィークではTB Way唱和のリーダーを務め、自身の実践エピソードを共有しました。これまで、課題に向き合う際には現場に足を運び真因を追求すること、また自らの役割に責任を持ちやり抜くことを大切にしてきました。こうした経験は、TB Wayの「現地現物」や「責任」の実践そのものであることを紹介しました。当日は、世界各地のリーダーと価値観を共有しながらTB Wayを唱和することで一体感とつながりを実感し、その経験がその後の業務における連携の深化にもつながっています。



豊田紡織(天津)
総経理
田中 亜矢

TB Way

従業員エンゲージメントサーベイスコア
TB Way理解浸透度※

79%

人材評価への組み込み

- 当社は、TB Wayを人事評価の基準に取り入れています
- 「現地現物」「挑戦」「多様性の尊重」などの行動を評価項目として定めています
- 業務のPDCAを通じて実践状況が評価・フィードバックされ、行動改善と定着につなげています

TB Wayを根づかせる実践事例

TB Wayおよびコンピテンシー(行動規範)の実践を着実に進めるため、人事評価の中で年3回(期初・年央・期末)、上司と部下の面談を実施しています。期初は、前年度の成果や課題をフィードバックし、TB Wayに基づく新たな目標を設定。年央では、進捗状況を確認し、フォローアップを行います。そして期末では、目標達成に向けた取り組みや能力の伸長度を評価します。また、面談・評価を適切に実施するために、新任上司研修で面談方法の知識やスキルを習得する機会を設けるとともに、上司と部下が日常的に対話やフィードバックを継続する風土づくりにも取り組んでいます。このような評価と対話のしくみを通じて、TB Wayの実践と定着を促進しています。



人材戦略部タレント
マネジメント室人事
評価グループ GM
こんどう あゆみ
近藤 亜弓

編集方針

1 トヨタ紡織のはじまりとこれから

2 価値創造のドライバー

3 インテリアスペースクリエイターの具現化

4 2030年目標達成に向けた戦略

5 競争優位を支える経営資源の高度化

6 強靱なグローバル経営基盤の確立

補足資料・データ

人的資本レポート P6「エンゲージメントの向上」

